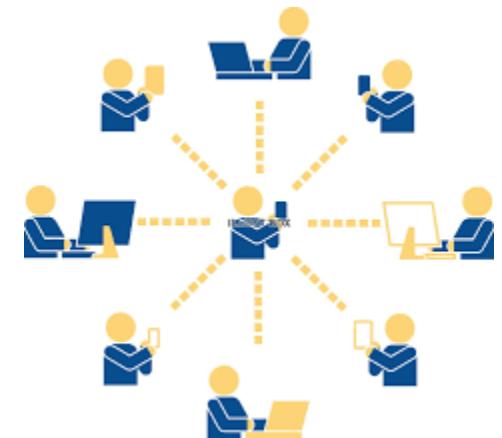


## RISING特別講演（15分）

# これからのジョブ型就職を 支える研究会への変革 ～一生成長する社会へ～

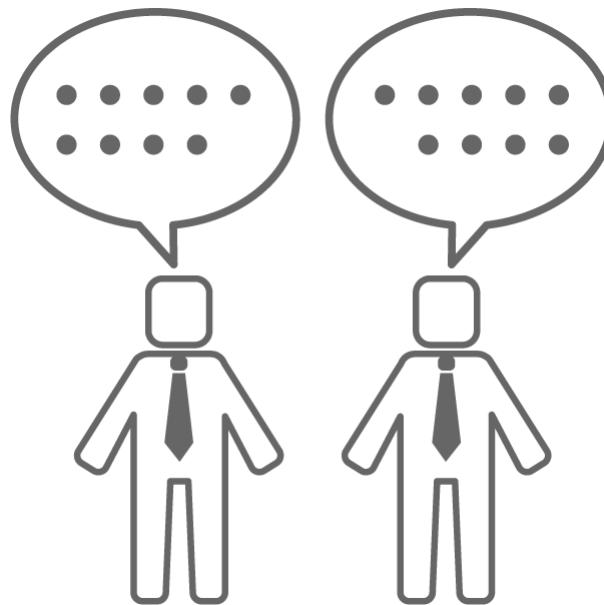
電子情報通信学会  
副会長 (学会運営・組織強化担当)  
山中 直明



# 人間の知識と進化



学習



情報共有



多様化  
場所の提供  
自由なシステム  
Give & Take



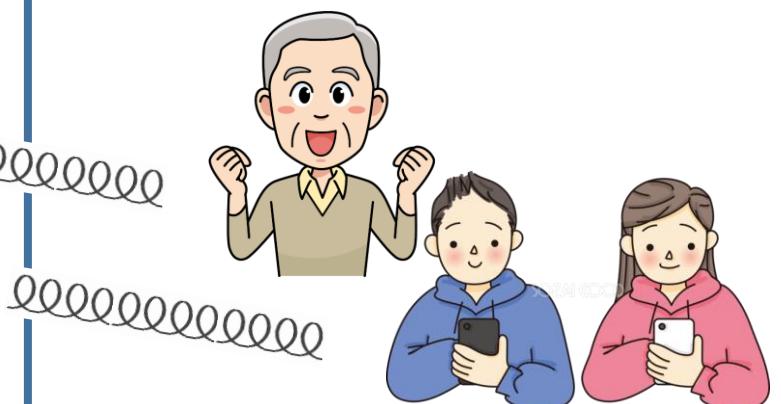
成長

Watering Hole  
(電子情報通信学会/研究会)

# IEICE-HUB

IEICEをハブとして、大きなダイバージェンスを獲得する

グローバル、企業、アカデミア、年齢



# 学界は論文発表のみでは、30%の意味

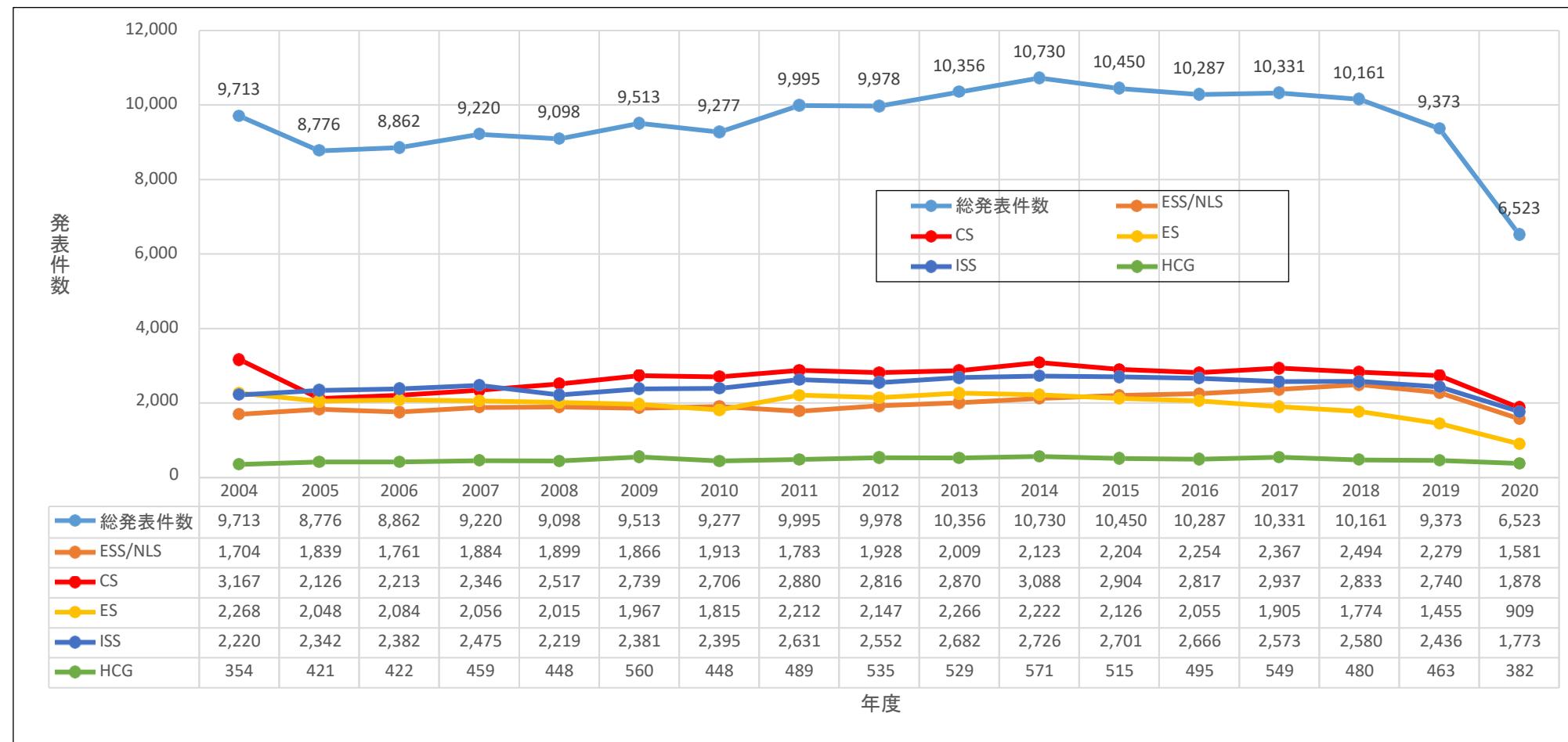
- 近年の（間違えやすい）風潮
  - 論文発表は重要。インパクトファクタが重要
  - 発表を数多く行う
  - 発表したら、すぐ帰る
  - 人の話は聞かない
  - 成果主義
  - 学界は会費をはらっているのだからサービスしてくれるものである。

いろいろなレベルで、**コミュニティを作り、異分野、異業種、自分とは違う人たちとコミュニケーションを行う。**

自らが貢献し、みんなで強いコミュニティを作る

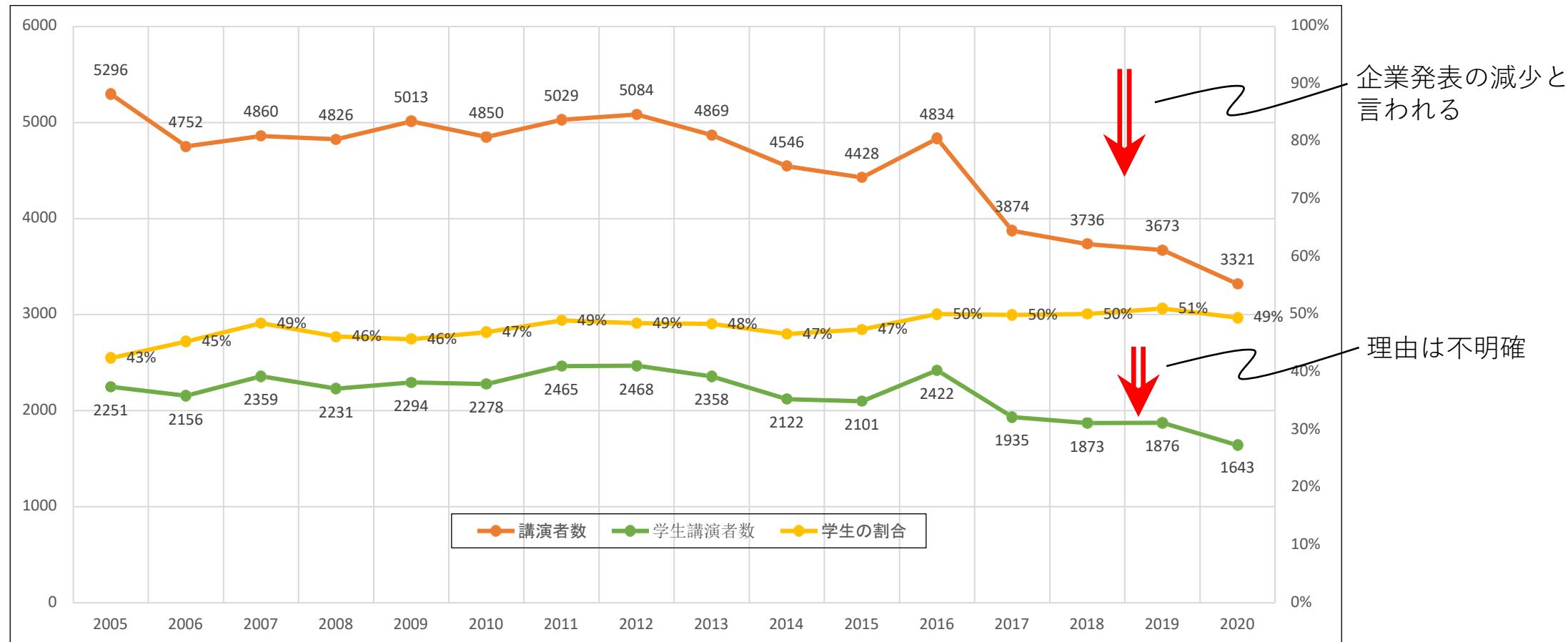
学界は営利ビジネスではない。全員ボランティアで活動している

- 2020年度は発表件数が大幅に減少



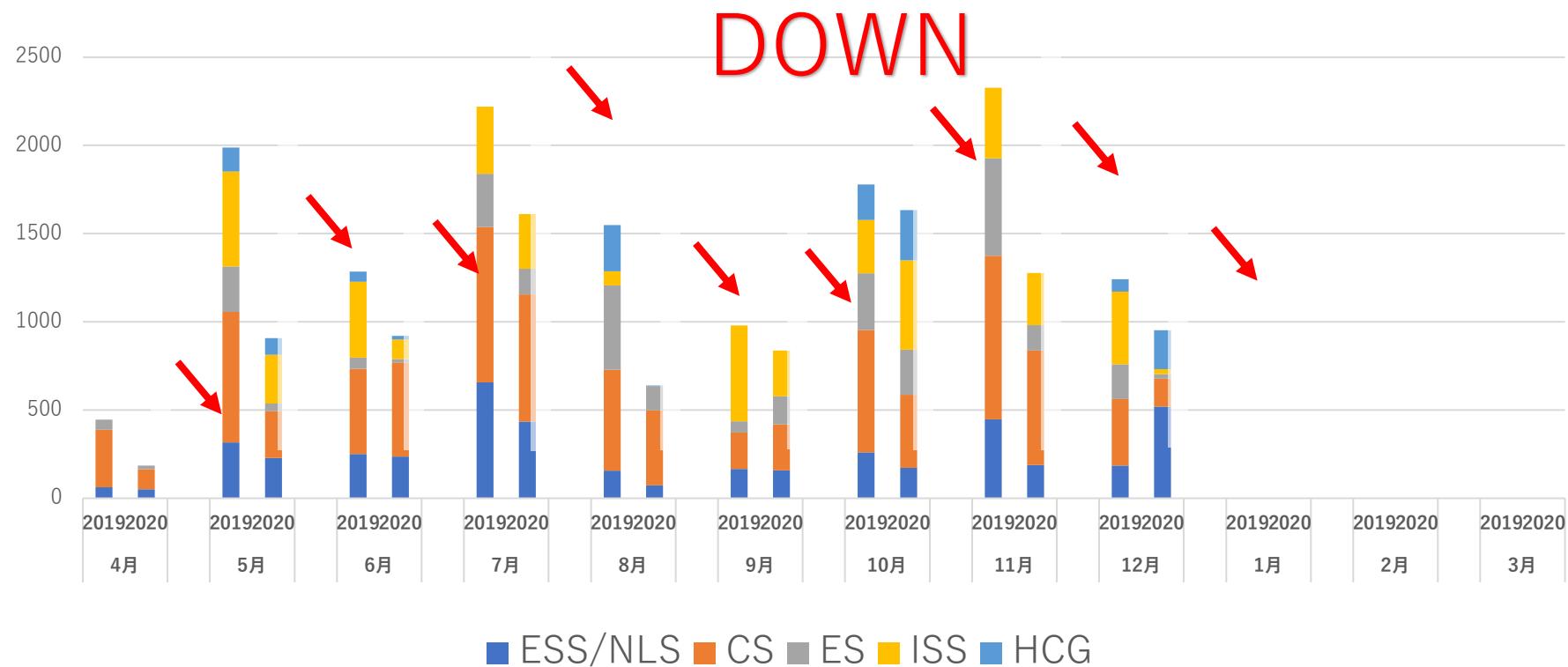
# 学生講演の割合（総合大会、ソサイエティ大会）

- 長期レンジで見た講演件数は減少傾向の中で、学生の講演件数は約50%程度



# コロナ禍における研究会参加者数

参加者数 (2019年度／2020年度)



今は仕方ない→afterコロナは一定程度オンライン/ハイブリッドは有効

# 何がコロナで研究会になくなったの？

Zoom飲み会は無くなった > 我々は、3密な研究会を求めていた

- コミュニケーション
  - 本当に、発表を聞きたいだけか?
    - 参加者はいても質問はない
    - 会場で知り合いと情報交換、相談
    - 突っ込んだ、個別の質問や議論の欠如
- もっときな臭いことがしたい?
  - 「普段の私を見て」活動 本当に30分スーツを着て面接して就職を決めているナンセンスをやめませんか?
  - もっと、実務的な情報交流や情報発信もしたい 会員の1割以下の人  
が論文投稿します。のこりの人は、いわばライトユーザー

# EventIn



Beyond テレワーク  
**V-CUBE**



共同開発



皆さんの先輩 慶應発のベンチャ

2020年 初夏。 コロナ禍に直面して、危機感  
Webinarは好評 分析すると 無料、有名人 講演のみ  
大学院の学生の発表 有料 QAやパネル?  
ブースやポスターはどうするか?

Zoomにはない、ポスターを行うプラットフォームをIEICEが開発して、多くの学会や大学に届ける

# 学会の対応（1）EventInの開発

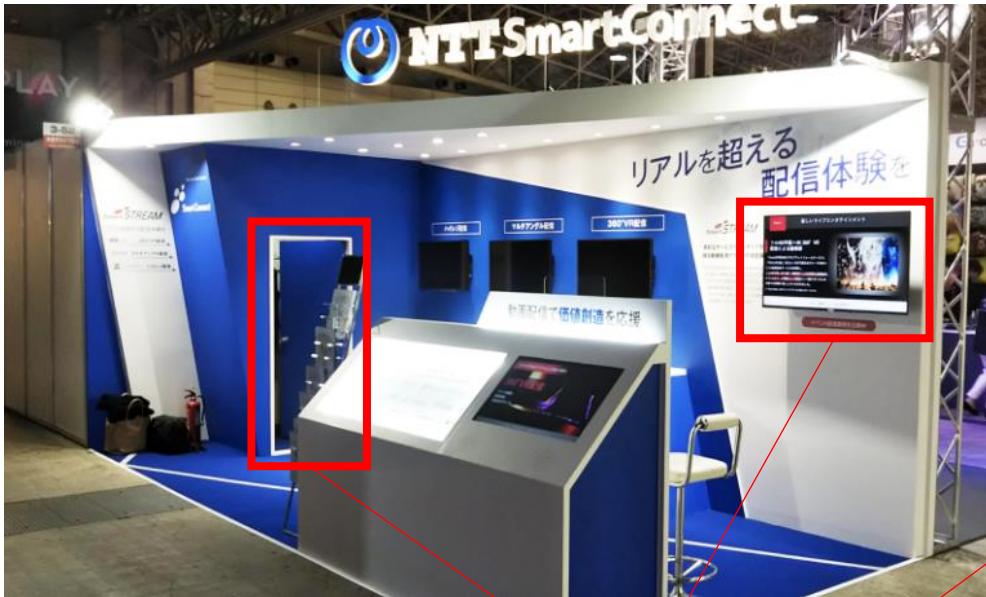
Booth形式で、自由に回れる 小さな部屋 お試し視聴機能



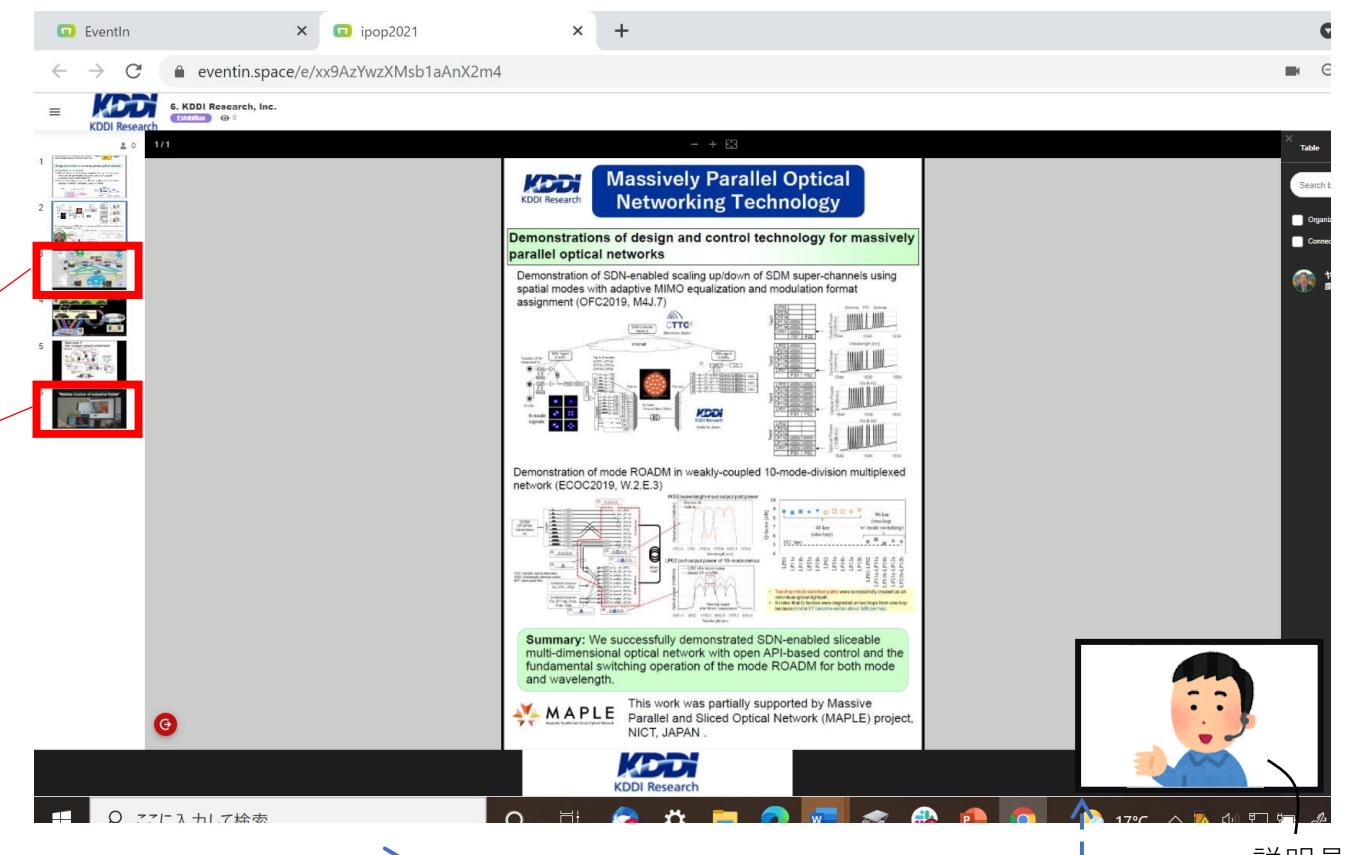
The screenshot shows a digital exhibition hall for KGRI (Kagoshima University Research Institute) featuring a grid of 16 virtual booths. Each booth contains a thumbnail image of a researcher, their name, and a brief description of their project. A central modal window titled 'お披露題: KGRIアクティビティ' (Revealed Topic: KGRI Activities) displays a video titled 'Extending Healthy Life Expectancy Project: Establishing the "KGRI role model for a healthy society with longevity"' by Dr. Toshiaki Kondo. The interface includes a search bar for participants, a sidebar with navigation icons, and a footer with language and date/time information.

# 学会の対応（2）EventInの開発

展示モード = 複数の人が非同期で、別なものを閲覧



複数の人が別々に見る



EventIn

ipop2021

KDDI Research, Inc.

Massively Parallel Optical Networking Technology

Demonstrations of design and control technology for massively parallel optical networks

Demonstration of mode ROADM in weakly-coupled 10-mode-division multiplexed network (ECOC2019, W.2.E.3)

Summary: We successfully demonstrated SDN-enabled sliceable multi-dimensional optical network with open API-based control and the fundamental switching operation of the mode ROADM for both mode and wavelength.

M A P L E

This work was partially supported by Massive Parallel and Sliced Optical Network (MAPLE) project, NICT, JAPAN.

KDDI

PLAY

リアルを超える配信体験を

複数の人が別々に見る

説明員

今後

→よりブースのイメージを作る

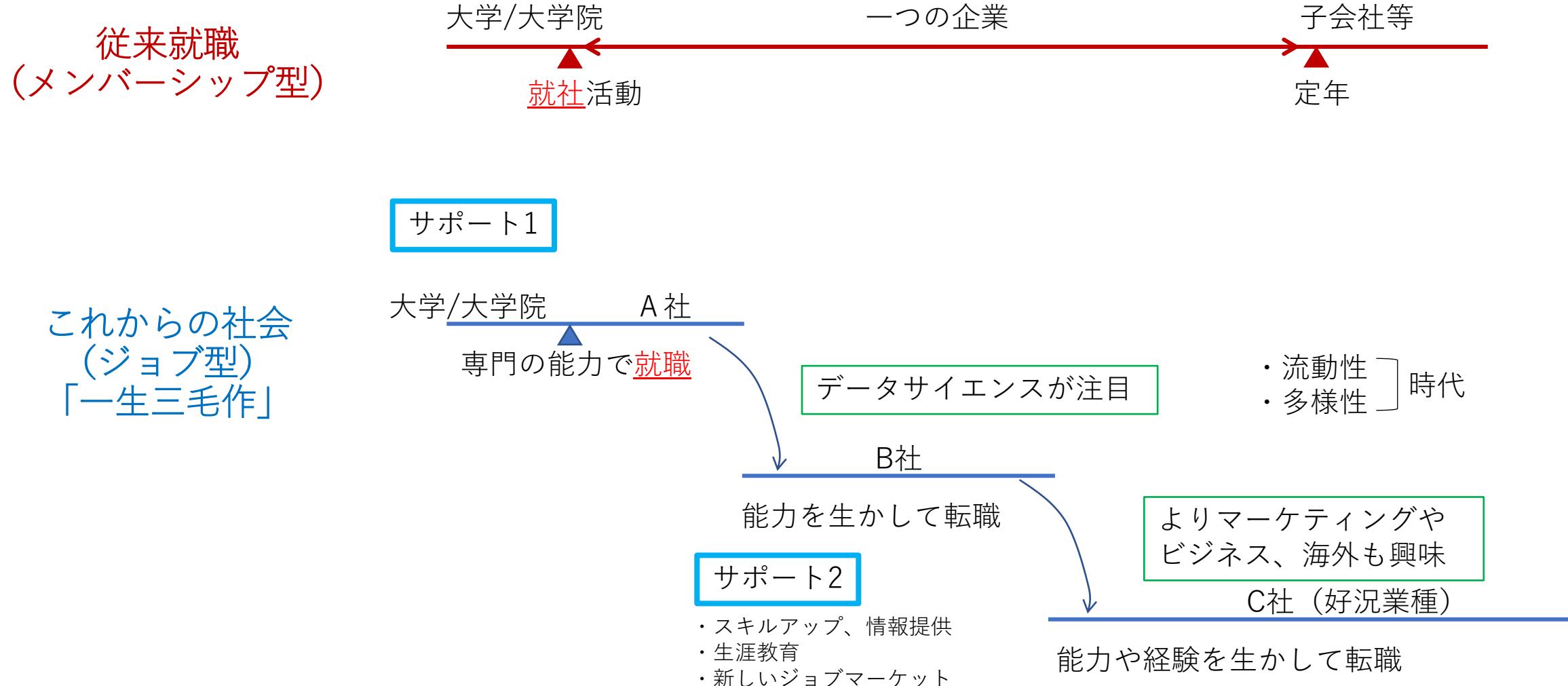
個別ディスカッションを可能に

# 研究会での発表

従来 研究成果 → 発表 → ディスカッション/コメント → フィードバック+実績

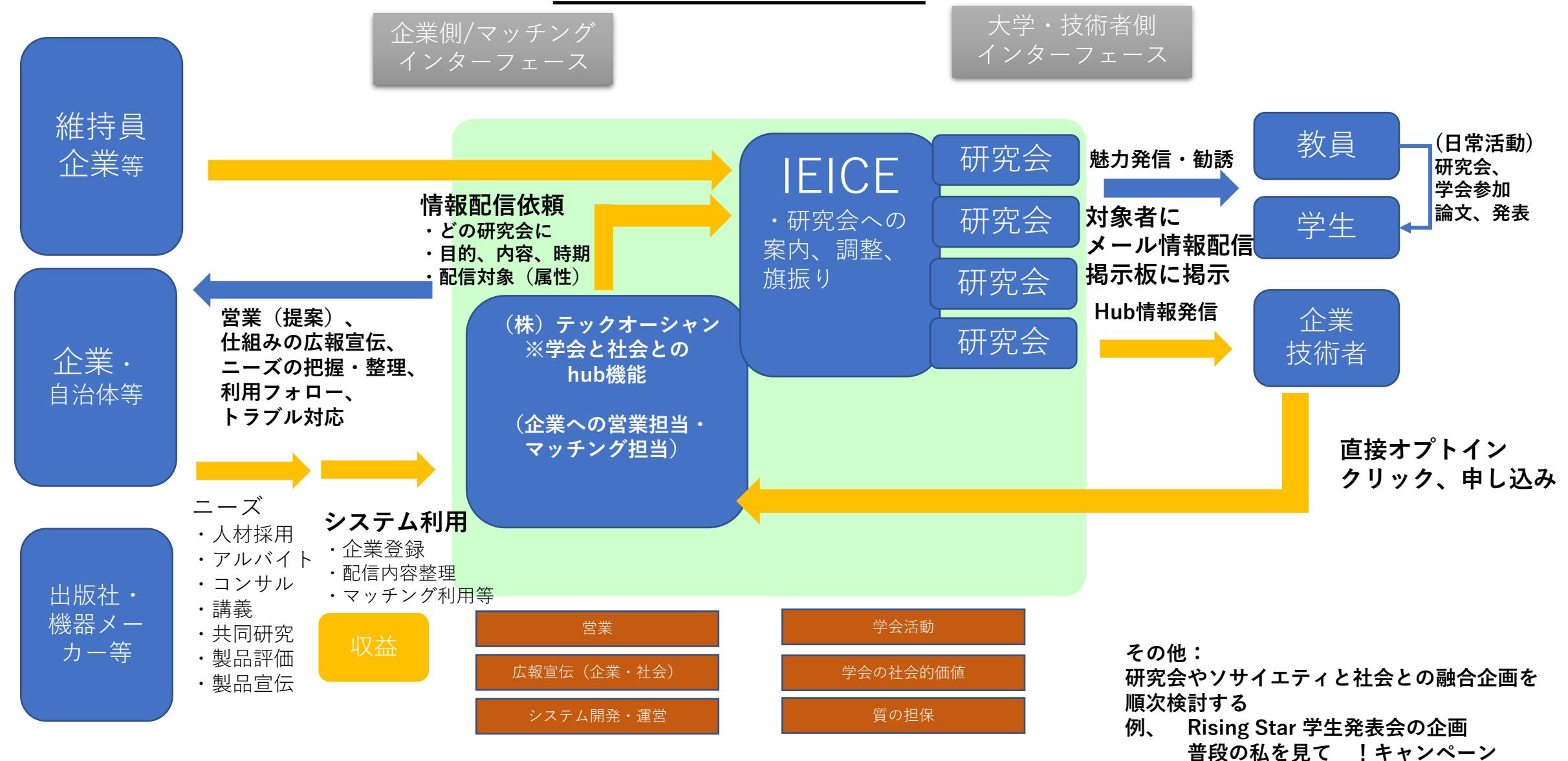
さらなる利用 研究成果 → 発表 → バックグラウンド技術のエビデンス ← 求人  
← 発注  
← コンサル依頼  
← 共同研究依頼

# 電子情報通信学会の対応（2） 研究会の活性化と社会の変化

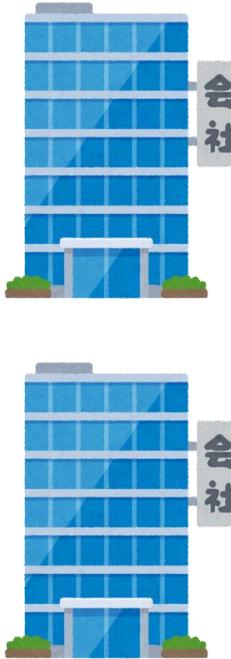


# 学会の対応（2）IEICEコネクト

## 基本の枠組み



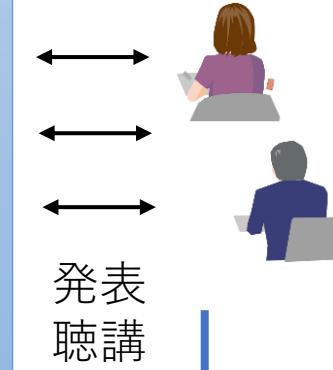
\*オプトインのみにする



ターゲット広告

#### キーワード一覧

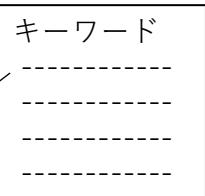
研究分野	トピックス
無線通信理論	周波数有効利用技術, 通信路容量評価, 变復調理論, 適応信号処理, 情報理論, 符号理論, セキュリティ, ネットワーク構成
無線伝送方式	移動通信方式, 固定通信, 光無線通信, ダイバーシティ, 適応リンク制御, 誤り制御, MIMO, 適応帯域・干渉キャンセラ, RoF (radio on fiber)
無線アクセス方式	多元接続(マルチアクセス), マルチキャリア, 無線LAN/PAN, 無線リソース制御, 放送技術(ブロードキャスト), 協力・協調通信, 同期技術, MAC
無線ネットワーキング技術	マルチホップネットワーク, 無線中継(リレー), センサーネットワーク, ハンドオフ, QoS制御, 分散ネットワーク, ヘテロジニアスネットワーク, クロスレイヤ技術
無線通信標準化・実装技術	回線設計, 移動機・基地局装置, 制御装置, 变復調回路, 標準化技術, 無線センシング技術, 無線伝搬測定, 環境電磁



オプトイン

【例】

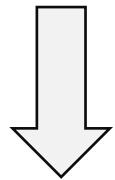
- 自動運転を開発
- AI画像
- プログラム
- システム開発



# 「就社」から「就職」へ

従来

- ・メンバーシップ型の「就社」
- ・30分の面接



今後の型

- ・ジョブ型の就職
- ・真の技術や展開力を見てもらえる
- ・自分の適性や能力を生かした仕事
- ・学会を通しての出会いを作る！

# 私たちの本質を見て採用して！！

本当にいいのですか？



- ・30分の面接。学生はそれに備える練習
- ・就職ランキング？違う業種や特色があるのに？内容なんて分からない？マッチングって何？
- ・リクルートスーツを着て就職活動？疲れ切っている学生。みんな同じ行動？

「就社」から「就職」へ

- ▶スペシャリストとしての日頃の活躍、経験をアピールしよう
- ▶普段の活動を見て（企業の人）、個性を把握して採用しよう
- ▶企業の人とのコミュニケーションにより、自分の特性やロールモデルを見つけよう！！

## 学会が変わりましょう

- ・研究会に企業のエンジニアや人事の参加をお願いしましょう
- ・企業のエンジニアとの交流を促進してください
  - ▶ ウェルカムパーティー？
  - ▶ 研究会の価値向上
- ・学会と企業との距離をつめる
- ・学会でアピール（活動）すると、自分が得をするメカニズム

# 研究会活性化トライアルについて（報告）

教育事業アドホックで検討を行い、前回サービス委員会で研究会活性化トライアルとして、テックオーシャン社と連携し、企業からの情報（共同研究、製品、求人、コンサル等）を送ることが承認されたため、トライアル参加者を募集した。

The screenshot shows a Microsoft Edge browser window with two tabs open. The active tab displays a proposal document titled "研究会活性化トライアルのご協力のお願い" (Proposal for Research Meeting Trial Cooperation). The document details the purpose of the trial, the information to be provided by companies, and the expected outcomes. It also includes a section for members to provide their contact information.

The second tab shows the official website of the Institute of Electronics and Communication Engineers of Japan (IEICE), specifically the "PICK UP" section. This section highlights three services: "IEICE Studio Service", "EventIn Utilization", and "Push-type Information Provision Service (Trial)". Each service is accompanied by a brief description and a small icon.

At the bottom of the browser window, the address bar shows the URL: [https://forms.office.com/pages/responsepage.aspx?id=UTNQ2axS0qWR\\_jr\\_881210sTSBrreNOoDJKZqauRdUQVg1MVhWUJSMFQ3VjUxUEITQkxKQTZVWS4u](https://forms.office.com/pages/responsepage.aspx?id=UTNQ2axS0qWR_jr_881210sTSBrreNOoDJKZqauRdUQVg1MVhWUJSMFQ3VjUxUEITQkxKQTZVWS4u). The taskbar at the bottom right of the screen shows various pinned icons and the date/time: 9:40 17°C 2021/11/15.

# むすび

電子情報通信学会は「学校」「修理工場」  
→ 次々と変わる技術への追随  
→ エラー、弱点の修理

そして、出会いの場  
→ 一生、利用してみてください